

佐渡米通信

こめへる

2025年 5月号

発行日:2025年5月

発行:佐渡農業協同組合 担当:総務部企画総務課 駒形(葵)
jasadosoumu02@snw.ocn.ne.jp

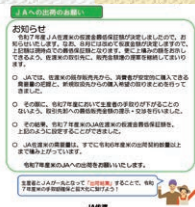
今年度の秋まで集荷結集運動

昨年度の集荷率は計画に対して80.6%であったことが最終的な集計で明らかになりました。今年度も昨年度同様に民間業者から農家への直接買い取りが予測されます。JA佐渡では3月中旬から管内の生産者宅へ出荷のお願いに訪問を始めました。現在までの訪問件数は250件となっており、秋までに2,500件の訪問をJA佐渡職員一丸となって取り組みます。

集荷率の低下は集荷業者による影響だけでなく、米の収穫量の低下も影響していることから引き続ききめ細やかな営農指導の実施に努めて参ります。



生産者宅へのお荷へのお願い訪問の様子



JA佐渡からの出荷のお願いのチラシ

佐渡の米農家さんのお仕事紹介

両津地区の長田さんに畦塗りと育苗管理を見せて頂きました。長田さんはコシヒカリ、こしいぶきを4ha作っています。畦塗りは、毎年春に行う本田準備の重要な作業の1つです。畦とは田んぼに水を溜めるための田んぼを囲う土手です。土で出来ているので割れ目が出来たり、モグラが穴をあけてしまうために畦を補修する作業が必要です。畦塗りを行う前日には草刈りをまず行うそうです。管理している23枚の田んぼの畦塗りには前日の草刈りも含めて4日間の作業日数を要するとのことでした。

長田さんは2年前に定年退職し、それまで積み立てていた資金を元手に農機具を新調し耕作面積を増やしました。地域の担い手も減り、物価高による厳しい農業経営が続いていますが実父の始めた一年を通して果物を楽しめる果樹園と自身で種から育てた果樹を加えて15品種の果物が日々の活力の糧となっているそうです。



畦塗り前にモグラがあけた穴がたくさんあると作業の重要性を説明してくれる長田さん

長田さんのある日の切り抜き

AM 7:30

- ・稲の育苗管理
(日中の暑さ対策)
- ・畑や果樹の管理
- ・田んぼの様子を見る



稲や果樹に「おはよう」と声を掛けながら見回り

PM 1:30

- ・田んぼ作業
- ・畦塗りや草刈り



前方の木を目印に直進を心がける畦塗り

PM 4:30

- ・稲の育苗管理
(夜間の寒さ対策)



種もみから芽が出た